

令和 2 年度実施 Ames 試験総合評価

通し 番号	CAS番号	物質名	選定理由	試験 番号	試験方法	溶媒	試験機関による結果の判定		専門家による評価			【総合評価】 ①遺伝毒性なし ②弱い遺伝毒性あり ③強い遺伝毒性あり ④遺伝毒性ありだが、強弱の判断不能
							結果	最大比活性値 (Rev/mg)	担当委員 (主担)	試験の 適否	備考	
1	7446-70-0	塩化アルミニウム	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3299	ブレインキューベーション法	1,4-ジオキサン(超脱水)	陰性		清水委員	適		①遺伝毒性なし
2	66-25-1	ヘキサナール	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3300	ブレインキューベーション法	DMSO	陰性		清水委員	適		①遺伝毒性なし
3	1076-85-4	塩化ストロンチウム	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3301	ブレインキューベーション法	注射用水	陰性		清水委員	適		①遺伝毒性なし
4	1317-40-4	硫化銅(Ⅱ)	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3302	ブレインキューベーション法	DMF	陰性		荒木委員	適		①遺伝毒性なし
5	543-90-8	酢酸カドミウム(Ⅱ)	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3305	ブレインキューベーション法	DMSO	陰性		荒木委員	適	国際がん研究機関(IARC)によると、動物実験やカドミウムを扱っている労働者(職業性曝露)またはカドミウム汚染地帯の住民の高濃度曝露データに基づき、 カドミウムはヒトに対して発がん性のある物質(グループ1)と分類 。 GHS分類情報ではカドミウム化合物の哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性結果を記載している。	①遺伝毒性なし
6	1600-27-7	酢酸水銀(Ⅱ)	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3306	ブレインキューベーション法	DMSO	陰性		荒木委員	適	金属水銀及び無機水銀化合物として、IARCの発がん性評価でグループ3としている。 GHS分類情報では、水銀および水銀化合物はin vivoにおいて動物の体細胞に染色体異常を誘発することを記載している。	①遺伝毒性なし
7	999-61-1	2-ヒドロキシプロピル=アクリラート	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3307	ブレインキューベーション法	DMSO	陽性	1.64 × 10 ¹	太田委員	適		②弱い遺伝毒性あり
8	3391-86-4	1-オクテン-3-オール	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3308	ブレインキューベーション法	DMSO	陰性		太田委員	適		①遺伝毒性なし

通し 番号	CAS番号	物質名	選定理由	試験 番号	試験方法	溶媒	試験機関による結果の判定		専門家による評価			【総合評価】 ①遺伝毒性なし ②弱い遺伝毒性あり ③強い遺伝毒性あり ④遺伝毒性ありだが、強弱の判断不能
							結果	最大比活性値 (Rev/mg)	担当委員 (主担)	試験の 適否	備考	
9	1806-26-4	4-オクタノール	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3309	プレインキュベーション法	DMSO	陰性	/	太田委員	適		①遺伝毒性なし
10	2078-54-8	2,6-ジイソプロピルフェノール	遺伝毒性の有無の判断困難とされた物質	T-3310	プレインキュベーション法	DMSO	陰性	/	杉山委員	適		①遺伝毒性なし
11	126-72-7	トリス(2,3-ジプロモプロパン-1-イル) = ホスファート	既実施のAmes試験の結果が把握されておらず、構造活性相関の結果が「+」であった物質	T-3311	プレインキュベーション法	DMSO	陽性	4.54 × 10 ⁴	杉山委員	適	代謝活性化非存在下においてTA100とTA1535は陽性。代謝活性化ありの場合は、全菌株において陽性。	③強い遺伝毒性あり
12	618-46-2	3-クロロベンゾイル=クロリド	既実施のAmes試験の結果が把握されておらず、構造活性相関の結果が「+」であった物質	T-3312	プレインキュベーション法	アセトン	陰性	/	杉山委員	適	被検物質の溶媒中での安定性の観点からアセトンを使用。	①遺伝毒性なし
13	2905-62-6	3,5-ジクロロベンゾイル=クロリド	既実施のAmes試験の結果が把握されておらず、構造活性相関の結果が「+」であった物質	T-3313	プレインキュベーション法	アセトン	陰性	/	杉山委員	適	被検物質の溶媒中での安定性の観点からアセトンを使用。 代謝活性化条件でのTA100において、再現性をもって2倍未満の復帰コロニー数の上昇を認める。	⑤遺伝毒性の有無の判断困難
14	4659-45-4	2,6-ジクロロベンゾイル=クロリド	既実施のAmes試験の結果が把握されておらず、構造活性相関の結果が「+」であった物質	T-3314	プレインキュベーション法	アセトン	陰性	/	増村委員	適	水で分解しガス発生。DMSOと反応する可能性あり。 TA100 (+S9)の本試験で最大1.7倍の復帰変異コロニー数増加がみられたが、生育阻害用量付近であり、再現性低い(用量設定試験1.3倍、確認試験1.4倍)。陰性と判断。	①遺伝毒性なし
15	6283-25-6	2-クロロ-5-ニトロアニリン	既実施のAmes試験の結果が把握されておらず、構造活性相関の結果が「+」であった物質	T-3315	プレインキュベーション法	DMSO	陽性	1.07 × 10 ³	増村委員	適	水に不溶。 ±S9条件下のTA100, TA98で2倍以上の復帰変異コロニー数増加。	③強い遺伝毒性あり
16	111-85-3	1-クロロオクタノール	既実施のAmes試験の結果が把握されておらず、構造活性相関の結果が「+」であった物質	T-3316	プレインキュベーション法	DMSO	陰性	/	増村委員	適	水に不溶	①遺伝毒性なし

通し 番号	CAS番号	物質名	選定理由	試験 番号	試験方法	溶媒	試験機関による結果の判定		専門家による評価			【総合評価】
							結果	最大比活性値 (Rev/mg)	担当委員 (主担)	試験の 適否	備考	①遺伝毒性なし ②弱い遺伝毒性あり ③強い遺伝毒性あり ④遺伝毒性ありだが、強弱の判断不能
17	25014-41-9	ポリアクリロニトリル	既実施のAmes試験の結果が把握されておらず、構造活性相関の結果が「+」であった物質	T-3317	プレインキュベーション法	DMSO	陰性		増村委員	適	水に不溶	①遺伝毒性なし